

動物の命の大切さ

五年 安間凜々愛

「リーナちゃん、病院に行くよ。」

私が飼っているペットのネコだ。リーナちゃんは、生まれて一年ぐらいから、じんぞうの病気にかかっています。だから、一週間に一回病院に行って、せ中に点滴を打ちに行っています。年れいは十三才、人間でいうと六十八才になります。もう十二年も病院に通っています。病院の先生が

「ネコはね、人間とちがって本当にいたくなるまで、じつとがまんできる。」

と話していました。私とはずいぶんちがいます。リーナちゃんは、最近食よくがなく病院へ行くたびに体重が減っているのと、とても心配していて、さみしい気持ちになります。動物も家族の一員でリーナちゃんは、私が生まれる前からいます。私が初めて話した言葉は

「ニャーニャー。」

です。小さい時の写真にもリーナちゃんが写っている写真がたくさんあって、リーナちゃんとは私はいっしょに成長してきました。リーナちゃんがいる生活が当たり前で、もしいなくなってしまうたらと思うとむねが苦しいです。想像もしたくないほどさびしいです。人間とちがって四才ずつ年をとっ

ていくので後悔しないように、毎日を大切に、かわいがってあげて、この家に来て幸せだなと思ってくれるようにしてあげたいです。

私は動物病院へ行った時、大型犬やネコなどたくさんみます。不安そうにしてこしを低くしているすがたや、落ち着かなくてウロウロしている犬、しんさつしつにロープで引っぱられていく犬みんな不安そうです。人間とちがって話ができないので行動や表情に出していました。テレビで、動物をぎゃくたいするニュースをみます。動物がかわいそうで犬やネコなどすべての動物を守ってあげたいです。特にペットは、飼いぬしがいないと生きていけないし、ペットがいる事で心がやさしくなったり、落ちついたりします。おたがいに大切なそんざいだなと思います。

私は飼っているペットから命の大切さを学んだり多くの体験をしてきました。世界中の動物が幸せにくらせるように、動物愛護を大切にしたいです。

そして、私の家にいるリーナちゃんが一日でも長く私の家族と、いっしょにくらせるようにいっぱい、いっばい、かわいがってあげたいです。